

## 令和元年度全国剣道指導者研修会（関東ブロック・山梨県）



令和元年度全国剣道指導者研修会・関東ブロック《国庫補助事業》（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝山梨県学校剣道連盟）は、11月16、17日の2日間、山梨県小瀬スポーツ公園武道館を会場に、中学校保健体育科教員20名を含む67名が参加して実施された。

本事業は、中学校武道必修化の充実に向け、全国の中学校において剣道の導入及び効果的な授業が展開されるよう、全国9ブロックのうち毎年5ブロックで開催されている。本研修会は近畿ブロック（大阪府）、北信越ブロック（石川県）に続き、本年3カ所目であった。



開講式では、はじめに田谷将俊日本武道館振興課副主事が「本研修会は、1校でも多くの中学校で剣道が導入され、効果的な授業が展開されることが目的です。この2日間で多くのことを学び、学校現場で生かしてください」と挨拶。続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が「本研修会は10年目を迎えます。これまで受講された先生方が、本研修会を通じて『剣道授業をやればできないことはない』という自信を持ち、それが現場に広まった成果として、剣道の実施率が2割から3割に上がっています。本研修会の内容を現場で広めていただき、剣道を通じて中学生の人間教育に効果を挙げられますようお願いしています」と挨拶。続いて、主管県から渡邊宏一山梨県剣道連盟会長が「本県でも少年剣道人口の著しい減少の対応に苦慮しています。その中で、多くの中学生が剣道を経験することとなる中学校武道必修化に期待を寄せてい

ます。参加の先生方には本研修会の現場での成果を期待しております」と歓迎の言葉を述べた。

開講式終了後、講義、実技研修が行われた。

### ①講義「中学校保健体育における武道（剣道）の学習について」—軽米満世講師

まず基礎的知識として中学校における剣道授業の現状と、新学習指導要領における「剣道」の位置づけを、資料を基に確認。それを踏まえて、剣道学習における授業づくりでは、次の5項目が特に重要な考え方であるとの説明がなされた。

1. 体ほぐしの運動の趣旨を活かした導入
2. 対人での学習による基本動作・基本となる技の習得
3. 基本となる技（打ち方・受け方）の段階的な指導
4. 打突の機会の作り方の学習を通して、「思考力、判断力、表現力等」を育む指導
5. 教材・教具を工夫して、できる楽しさや攻防の楽しさを味わわせる学習活動

以上についての具体的な指導方法を、本研修会で学んでいただきたいと要望し、締めくくった。

### ②講義「安全指導について」—百鬼史訓講師

講義の冒頭、子供たちにケガをさせないことが第一であり、効果的な授業の前に「安全であること」を強調。剣道は他種目と比べて事故が少ないといわれているが、過去には竹刀の保守管理を怠った事故が発生しており、具体的な管理方法などを紹介し、安全管理の重要性について説明した。

### ③講義「体罰・暴力によらない指導」—花澤博夫講師

報道や文科省調査から、学校現場では「体罰」が

依然行われている実態があるという。懲戒と違法行為である体罰の違い、体罰と判断される行為の例を法的根拠に基づき詳説。昨今は指導の在り方に工夫が求められており、具体的な言葉で褒めて伸ばす「褒める」指導が大切であると説いた。

#### ④剣道授業実践発表—上田長彦教諭（南アルプス市立若草中学校）

同校では剣道専門の体育科教諭がないため、専門的知識が少ない中で生徒の興味・関心をどう高めるかが課題であった。そこで今年度は、竹刀による恐怖感を軽減し、より剣道に親しみやすいようにと、県教育委員会主催の実技講習会で知った「簡易竹刀」を取り入れて実施した。結果、竹刀の場合と比べ、特に女子生徒の恐怖感が軽減し、動きが良かったという成果があったと報告された。



#### ⑤実技「剣道授業における楽しい動機付け」

—山神眞一講師、有田祐二講師、軽米講師

剣道授業における体ほぐしの運動の例として、剣道動作を取り入れた「剣道じゃんけん」や「手拭いゲーム」を実践。また、剣道の要素を感じ取らせる遊びの体験として「新聞紙切り」「ボール打ち」など、楽しみながら興味関心を養う方法を学んだ。

#### ⑥実技「剣道に必要な動きづくり」—軽米講師

踏み込みや送り足の基本動作を、手刀の動作を加えたランニングで行う方法などを体験。寒さ対策や運動量の確保にもつながるとの説明があった。

#### ⑦実技「剣道具のない授業例（1）」—網代講師、宮原昇治講師、井上孝講師

学校に剣道具がない場合において、木刀のみで実施が可能な授業の実践例を研修した。まず、武道の授業で重要な礼法についての意味や考え方、所作などを学習。そして、木刀を用いた授業の展開例として、「木刀による剣道基本技稽古法」を活用した一斉指導とグループ学習法を学んだ。



#### ⑧研究協議—佐藤義則講師

「剣道授業の現状と課題」をテーマにグループ別に話し合い、各自が抱える課題を皆で共有した。

#### ⑨実技「剣道具のない授業例（2）」—宮原講師、百鬼講師、花澤講師、佐藤講師

剣道具がない場合で、竹刀のみで実施が可能な授業の例を研修した。竹刀による打ち



方・打たせ方を、段階的に行う方法を実際に学習。続いて、音楽に合わせて行う指導法について、ペア学習・グループ学習のそれぞれの方法を学んだ。

#### ⑩実技「剣道具のある授業例（1）」—井上講師、有田講師、軽米講師

剣道具が揃っている場合の授業例を研修した。面や胴等の着装方法を確認した後、実際に打突し合い、段階的なしかけ技を実践。続いて、グループに分かれての判定試合を行い、気剣体の観点からしかけ技を判定する方法を学んだ。

#### ⑪実技「剣道具のある授業例（2）」—佐藤講師、山神講師、軽米講師

引き続き、剣道具が揃っている場合の授業例を研修した。応じ技を教材に、ごく簡単な判定試合の方法を学んだ後、約束練習、かかり練習、自由練習を実践。「攻防の楽しさ」を味わわせるポイント制の簡単な試合の指導方法等を学んだ。



#### ⑫「指導と評価」—軽米講師

学習評価の方法や考え方を解説。評価を指導の改善に生かす視点が必要であり、「指導と評価の一体化」「一人一人の学習状況を総合的に評価」「教師自身の振り返り」が重要との説明があった。



閉講式では、軽米講師が講評を行い、参加者を代表して出羽勝頼都留市立第二中学校教諭が講師への謝辞を述べ、山口朋生山梨県学校剣道連盟会長が主管県挨拶、網代講師が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。